

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 1F)

事業所番号	0691100051		
法人名	ふるさと企画有限会社		
事業所名	グループホーム大手町 和心		
所在地	山形県新庄市大手町1-25		
自己評価作成日	平成 30 年 9 月 5 日	開設年月日	平成21年11月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市の中心部に位置しており、窓からは新庄祭りや花火も眺めることができる恵まれた環境にある。市民プラザや図書館などの公共施設や公園が歩いて行ける距離にあるため、催し物や地域との交流にも気軽に参加できる。また、同町内にあるグループホーム大手町との交流や協力体制も整っている。「共に笑ってつながって」の理念のもと感性や感情にふれる交流をし、ご家族がなかなか連れて行けない場所へも職員と外出して自然にふれあったり、ホームに居ながら一流の音楽を聴く機会を設けるなど非日常を楽しんでいる。普段からご家族の思い、悩み・不安に耳を傾けながら情報交換を密に行い、信頼関係を築きながら笑顔のある穏やかな暮らしを送るお手伝いをさせて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では互いに信頼し家族のような関係を大切にして、利用者、職員共に和やかに穏やかに過ごしている姿があります。毎年皆で集う家族会が開かれ、今年は昔なつかしい遊びを一緒に楽しみ笑いあふれる一日を過ごし、新庄祭りではホーム前で移動する山車の見物や本祭りにも出かけ、知人との再会や熱気に喜び利用者の顔を見て今年も来られたことに職員達も喜びを感じています。また、利用者に役割をもってもらい張りのある生活を送ってもらおうと学校に寄付する雑巾作りも始め、笹巻き作りなど職員が教わることも多くやる気を大切にしています。これからもイベントや気軽な外出など楽しみ事を企画して、共に笑い合える日々を過ごしていきたいと取り組んでいる事業所です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 30年 10月 3日	評価結果決定日	平成 30年 10月 24日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に掲示して、全職員が常に意識できるようにしている。また、ホーム便りや運営推進会議の資料には毎回理念を載せ、所内研修時にも確認している。	利用者、家族、職員のつながりを大切に、互いに心とむ家族のような信頼関係の構築に努めている。「共に笑ってつながって」を心に留め、職員のケアにも配慮し笑顔の関わりで穏やかな暮らしが送れるよう心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の回覧版や資源回収への協力をしている。また、毎年町内の芋煮会や保育所の夏祭りには招待して頂いている。年1回は避難訓練に近隣の方から参加して頂いた。外壁に掲示板を設置し、地域への発信をしたり、玄関前のベンチは小休止に活用してもらっている。	地域住民とは日頃から挨拶を交わし合い雪かきやいきいきサロン100歳体操、認知症ワンポイント個別相談会などで協力関係ができています。また地域の催し物に利用者も一緒に参加して子供達や懐かしい知人との交流を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ワンポイント個別相談会を無料で行った。玄関にはAED設置のステッカーを貼り、市のHPにも登録している。地域のボランティアの受け入れや、各種イベントの広告への協力も行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・サービスの状況の報告は毎回行い、外部評価結果報告・家族アンケートの集計結果報告など、テーマを変えて、2ヵ月ごとに行っている。市の担当者・認知症地域支援推進委員・区長・家族の方々の意見を聞ける貴重な場となっている。	同法人グループホーム大手町と合同で定期的開催している。年間計画のテーマをもとに、子どもお仕事参観日、家族会、職員研修など行事や活動の報告に意見をもらい、参加者との情報交換の場として活かしている。	10年目を迎え運営推進会議の意義と参加者への働きかけを見直す良い機会とし、今後の新たな取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に空き情報を報告している。また、認知症ケアの相談会開催をお知らせし、宣伝して頂いた。	日頃から市の高齢生涯支援室、町の福祉課、地域包括支援センターとの関係を密にして情報を交換し、運営推進会議への参加や認知症ワンポイント個別相談会にも協力ももらい連携ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束排除のマニュアルを整備し、資料を用いた勉強会・回覧を行い、全職員に周知させている。玄関の開閉は、自動ドアの構造上職員が行っているが、ケアの一環としての外出は出来る限り行っている。玄関の施錠については、防犯上の視点から現状のままを家族から願われている。	研修や毎日のミーティング等で利用者の行動や心情を話し合い、職員同士共有しながら見守りに努めている。気分転換にもなる外出をプランに組み込み、やさしい声掛けや笑顔の対応で日々穏やかに過ごせるよう心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の防止とその対応についてのマニュアルを整備し、全ての職員に周知している。職員間の連携を密にし注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料の回覧や勉強会にて学び、相談に応じる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の写しを事前に渡し、目を通してもらっている。契約前や契約時・契約後も疑問点には説明を行っている。改定時の説明は書面にて行い理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを行っており、その結果と意見・要望は家族にも知らせ、サービスに活かしている。また、運営推進会議でも取り上げ、外部者への公表の機会を設けている。また、利用者の状態の変化には、個別に面談をするなど、不安や本意を聞いている。	毎年皆で集う家族会を開きゲームなど工夫を凝らした内容で喜ばれている。家族等には毎月のお便りで近況を報告すると共に面会時や電話などで情報交換し、利用者とは職員と1対1の場面を作り希望に添えるようにしている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	合同主任会議、フロア会議等で意見や提案を聞き、その都度適切に対応している。毎日、昼の決まった時間に1F2F合同のミーティングを行い、その内容は連絡ノートで全員に周知している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与・処遇改善手当・夜勤手当等に処遇改善金を活用し、労働時間の希望には個別に対応している。また、今年度行った第2回目の職員の子どもで中学生以下を対象に行った「お仕事参観」では、責任とやりがいを持ち、生き活きと仕事をしている姿を見せることが出来た。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	シフトの可能な限り外部の研修を受講させている。村山地区ブロックの交換実習へは、各ユニットから1名ずつ参加し、他事業所での実習を行った。	外部や所内研修で学びの場を設け事業所全体のレベルアップを図り、資格取得にも支援がある。また職員の子供や孫に働いている姿を見てもらい参観日を設け、やりがいや心と体の柔軟性を育む職員育成を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	最北地区グループホーム連絡協議会や村山ブロックグループホーム連絡協議会で同業者の交流を行っている。	管理者や主任等が各グループホーム連絡協議会に参加して情報交換をしながらサービスの質向上にむけて取り組んでいる。職員は自らが他事業所を研修場所として選び、活動や取り組みを見聞し視野を広げケアに活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に担当ケアマネジャーから情報を聞き、事前面談では必ず本人に会い、直接話を傾聴している。本人の思いに応えられるよう、何をしたいか何が不安かを理解出来るよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談から、家族が困っていること、不安なこと、要望等を聞き取り、情報を共有し、関係作りに努めている。家庭の延長のような暮らしが出来るよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅介護支援事業所のケアマネジャーや地域包括支援センター、必要に応じて主治医と地域医療連携を図りながら、本人・家族の思いも確認している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・配膳・片付け等をそれぞれの生活リズムを大切にしながら共に行動し、その中で人生の大先輩に教わり、共感し感動の気持ちを持ち、言葉を交わしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際は、必ず状況報告を兼ねて家族と話をしている。また、毎月便りで近況報告を行っている。遠方の家族やなかなか面会に来られない家族へは電話連絡で情報を共有している。状況の変化時の対応方法についても共に考え、対応するよう努めている。年1回は家族会を行い、交流を図っている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に住んでいた近所の知人や、友人、親戚、姉妹の方の面会がある。また、家族の協力で自宅や習い事への外出して頂いたり、馴染みの場所へのドライブをしたりしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士が一緒にお茶の時間を過ごし、談話を楽しめるように配慮している。また、制作活動を通して利用者同士が協力し交流を図れるように努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ転居される際、これまでの生活環境、支援の内容、注意点などの情報提供を行い、これまでの暮らしが損なわれないよう心掛けている。また退居されて数年経った今でも、家で育てている季節の花を持って来所してくれるなどの繋がりを持っている家族の方もいる。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前から行きつけの美容室に通っている方は現在も継続しており、散髪がてら会話を楽しまれている。自宅が近いため、家を見たいとの希望があり、それに応じて自宅前に回っている。家族との外出には本人の体調を鑑み対応している。	入居時に生活歴等の情報を把握し、日頃の会話の中からやりたい事や行きたい所、興味のある事などの思いを引き出し可能な限り実現にむけて取り組んでいる。得意分野で力を発揮してもらい張り合いのある生活を実感している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人家族・親戚・ケアマネジャー等から情報を提供して頂き、生活歴・生活習慣や得意とすること等の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の流れをシートに作成している。三ヶ月毎の介護計画の更新に伴う個別支援会議やフロア会議で各利用者の心身の状態の変化や、それについての対応について話し合いを設けている。毎日の引継ぎはフロア内の全職員が周知出来るよう引継ぎノートを活用している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を取り入れながら、本人が快適に過ごせるよう担当で話し合い、介護計画を作成している。作成した介護計画は家族より確認して頂き、サインしてもらっている。	今一番の問題点をプランの軸にして、担当者を中心に個別支援会議を開き、本人の言葉を大事に最善の支援策を皆で話し合い介護計画に反映させている。日々の記録で状態の変化を把握し、職員間ノートやミーティングで共有しながらケアの統一を図っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、健康管理記録、ケアプランチェック表を活用し、職員間で日中・夜間の様子、状況の把握やケアを相談できるようにしている職員間ノートの活用により統一したケアが行えるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同町内にある公共施設の利用や、地域の催し物を把握し、利用者の個々の興味のあるものを勧め、本人の意向のもと参加支援している。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームの協力医だけでなく、入居の際以前からのかかりつけ医との選択も、本人・家族の意向を踏まえ決定して頂いている。緊急時の受診の際は、当ホームの協力医に助言をいただき、より迅速に対応できるようにしている。	協力医による往診と希望するかかりつけ医を受診している。通院時家族が不都合な場合など職員が付き添い、結果は毎月の便りで家族へ報告し変化等はその日のうちに知らせ安心してもらい、職員は記録して共有し利用者の健康を支えている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と介護職員が毎日の健康管理や状態の変化に各々の観点からの意見を介して相談・連携し、適切な受信等を行っている。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、生活記録、健康管理記録等も活用し、生活介護概要票を作成したり、かかりつけ医の紹介状も合わせ、適切な医療が行えるよう病院の相談員と情報交換や面談を行っている。また、入院中も面会させて頂き、看護師に状況を伺い、退院に向けての状況の把握に努めている。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の時点で、重度化した場合の対応の指針を説明し、家族より同意を得ている。重度化に関しては、医師・家族・職員が本人の意向を踏まえ相談し、本人が以後適切な介護・支援が受けられるように対応している。	常勤看護師がいないことから、医療行為や看取りは困難である事を契約時に家族に伝えている。日頃の食事量や歩行困難など身体低下に気づけるよう心がけ、重度化した場合本人・家族・医師と話し合い方向性を統一して、できる限りの支援を行い不安なく過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応をマニュアル化し、連絡網を作成し、周知徹底に努め、目に付く所に掲示している。救急の初期対応に関しては、救命救急手当の実演・演習を行い、迅速に対応できるように努めている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	また、避難訓練により職員の意識付けを行っている。消防署・防火設備業者より助言して頂き、改善に努めている。また近隣の方々からも参加してもらい、何かあったらお互い協力し合えるようお願いしている。	消防署立ち合いの訓練をはじめ、様々な想定で訓練を行い日頃から防災意識を高めている。近隣との協力体制も築き、備蓄は一覧にして、昔の着物を洗い張りして利用者で作った防災頭巾や利用者情報は非常時の持ち出し物として用意している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が一人ひとりの性格を把握し、その方に合った声掛けと対応を行っている。職員同士で情報を共有し、その方の気持ちの変化にも即時に対応できるように努めている。	利用者の嫌がること、言って欲しくないことなどを念頭に日々の関わりをしている。職員は縫物や笹巻き・しそ巻き作りなど「わからないので助けて」とお願いし人生の先輩として教わり感謝を伝え、尊厳を大切にされた支援に努めている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の思いや希望を表して頂けるように日頃からコミュニケーションをとっている。職員と良い関係が築けており、本人の希望や自己決定を尊重している。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、本人のペースで生活できるように食事や入浴の時間をずらす等の対応が出来ている。晴れの日には、外で日光浴をしながらお茶会をしたり、ドライブをしたりしている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を自己管理できる方には、自分の着たい服を選んで頂いている。できない方にも、衣類や髪形を確認して頂き、その人らしい身だしなみをできるようにしている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好き嫌いを把握し、盛り付けの時にきをつけたり、好みの物を食べられるようメニューに取り入れたりしている。可能な方は、盛り付け皮むき、食器拭き等を行って頂いている。	食材と献立は業者のサービスを利用し事業所で手づくりしている。利用者の希望を聞きホームメニューを毎週取り入れ、魚やさしみ・煮物が好まれ皆で美味しく食している。誕生日会（長寿会）にはその方の好きなものや好きなことを聞いて担当職員と食事に出かける時もあり楽しみ事の一つとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食サービスを利用し、バランスの良い食事を提供している。個々の状態に合わせた食事形態で提供している。一日の水分・食事量を記録し、少ない方にはこまめに声を掛け提供している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方には声掛けと見守りを行い、出来ない方には介助を行っている。拒否がある場合は時間をおいて行ったり対応する職員を替えたりして工夫している。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各々の排泄パターンを把握し、それに沿って声掛けをしたり、誘導したりしている。排泄後の清潔保持や衣類の上げ下げ等、出来る方には声掛けし本人に行っている。	トイレでの排泄を大切に時間で誘導を行い自立支援に向け取り組んでいる。失敗時は周囲に気づかれないよう替えのセットを常備して交換するなどさりげない対応に努めている。夜間ポータブルを使用することでスムーズな排泄ができるようになった例もある。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、下剤の調整や水分摂取の促しを行っている。予防のため日頃から乳製品を提供したり、毎日のTV体操や、週一回のいきいき体操等を行っている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時は職員と会話したり歌を歌ったりして楽しんで頂けるよう工夫している。個々の希望する時間やタイミングに合わせて声掛けを行っている。拒否がある場合は時間や日付をずらして対応している。	時間や湯温など希望を大切に個浴でゆったりとした入浴支援となっている。羞恥心へ配慮し同性介助や洗えるところは洗ってもらい、嫌がる方は無理強いせず足浴や清拭を行い清潔保持に努めている。脱衣場を温めて気持ち良く入ってもらえるよう心がけている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠して頂けるよう、日中にレクリエーションや日光浴、体操を行っている。本人の状態に応じて休息をとれるように声掛けや介助を行っている。眠れない方には傾聴したり、傍についていたり、日中に不眠の原因がある場合は活動を増やしたりしている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者各々のファイルへ保管している薬の説明書を読み、理解している。主治医や薬剤師の指示のもと注意事項に気を付けて服薬している。薬が変わったり新しく処方されたりしたときは特に気を付けて状態観察を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や家族からの情報に基づき、個々に合った役割や活動を取り入れている。また、季節の行事や長寿会、ボランティアによる歌のコンサート、読み聞かせ等にて非日常も楽しんで頂いている。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望や体調により、天気の良い日はドライブ等を行ったり、週一回のいきいき体操に外出したりしている。また、家族の協力が得られる方は、家族と一緒に外出している。	日常的な散歩などは身体低下に伴い出たがらない利用者が多いが、天候に合わせてできるだけ外出の機会を作っている。季節毎に行事を企画し、昔行った懐かしい場所や地域の祭りにも出かけ生き生きとした表情が見られている。行きつけの美容院に行くなど個別支援も行っている。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人家族との相談のもと、お金は職員が管理している。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で手紙を書いたり電話をしたり出来る方がいないため、希望があった際は職員が電話を繋いでいる。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適かつ安全に過ごせるよう、家具の配置や色に気を付けている。季節の花や写真を飾ったり、季節に沿った装飾を職員と共に作成して工夫をしている。	居心地良く過ごせる空間づくりを心がけ、時期に合わせて皆で作った装飾品や行事の写真を掲示し季節を感じている。一人用の椅子を自分専用に使っている方もおり、それぞれ好きな場所を見つけて塗り絵や書道、雑巾縫いなどをしながらリビングで過ごしている。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内にソファとテーブルを設置し、一人一人が好きな場所で過ごしている。気の合う利用者同士が会話をしたり、TVを見たりと思い思いに過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人や家族と相談し、家具や寝具など馴染みのあるものを使用して頂いている。使い慣れたものがあることで安心して生活できる環境で過ごすことが出来ている。</p>	<p>使い慣れたものを持ち込み、ベッドの向きも意向に合わせ、また一日の流れが分かる時間割を掲示している方もおり、落ち着いて過ごせるよう設えている。動線には物を置かない、エアコンの風が直接当たらないよう安全にも配慮している。</p>	
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各居室やトイレには名前を書いた張り紙を貼り、わかりやすくしている。また、家具の配置に気を付け、安全に過ごして頂いている。</p>	/	/